

## 海外紹介

## 2003年オスロでのWFAS国際シンポジウム報告

黒須 幸男、津谷喜一郎

全日本鍼灸学会国際部

## はじめに

2003年度世界鍼灸学会連合会(WFAS)の国際シンポジウムが、WFASの主催、ノルウェー鍼灸協会(Norwegian Acupuncture Association; NFKA)の担当で、2003年9月12日(金)~14日(日)までの3日間、ノルウェー・オスロのオスロ・コングレスセンターにおいて「鍼のエビデンス、安全性と応用(The evidence, safety and application of acupuncture)」をメインテーマに開催された。参加者は21カ国から324名で、開催地ノルウェーからは182名、中国58名、イタリア14名、日本10名、イギリス、ドイツそれぞれ9名、インドネシア8名、オーストラリア7名、カナダ5名、デンマーク4名、スイス、米国各3名、オランダ、スウェーデンそれぞれ2名、ブルガリア、ベトナム、メキシコ、韓国、ポルトガル、スペイン、スロベニアそれぞれ1名の参加であった。なお、全日本鍼灸学会からは黒須幸男参与(WFAS副会長)と、津谷喜一郎(WFAS執行委員)が出席した。

## シンポジウム

## (1) 第1日 2003年9月12日(金)

開会式は、Main Auditorium(大講堂)で9月12日午前9時45分から行われた。まずノルウェー厚生大臣の祝辞にはじまり、張風楼・中華人民共和国厚生省最高顧問と房書亭・国家中医薬管理局次長、張小瑞・WHO伝統医学コーディネーター、オスロ市長の祝辞へと続いた。そのあと鄧良月・WFAS会長、アルネ・カウスラント本大会会長の歓迎の挨拶があった。

講演はPlenary sessionとして開会式の後、本会

場で休憩を挟み午前11時から午後1時まで4題が行われた。まず基調講演としてオーストラリアのシドニーウエスタン大学の中国医学部門Alan Bensoussanによる「最新の臨床研究」(45分)。次いでWHO本部の伝統医学部門を代表して張小瑞女史の基調講演「伝統医学特有の応用を促進するためのWHO伝統医学戦略」(25分)。続いて世界鍼灸学会連合会事務局長の沈志洋の「中医学の応用とその発展」(20分)。最後はノルウェーのVinjar Fonneboの基調講演「ノルウェーにおける過去、現在、将来の鍼研究」(30分)で、午前部としての代表講演は終わった。

午後は2時半からMain AuditoriumとMeeting Room Bの2会場に分かれて始まった。そこで最初に、Main Auditorium(Session 1A法制)から講演順に各演者の氏名とテーマ、さらに今回は一人の講演の持ち時間も全体的に長くまちまちなので参考のためそのことも含めて順次紹介していきたい。最初に招待講演としてWFAS副会長でもあるカナダのCedric K. T. Cheungの「カナダの中医薬と鍼の法律」(30分)、続いてオーストラリアのRichard Liの「オーストラリアの鍼と中医薬の法律」(20分)、さらにアメリカのRichard Hammerschlagの「アメリカにおける鍼の法律」(30分)について招待講演があった。

この後は一般講演に移り、オーストラリアのJudy Jamesによる「オーストラリアの中医学専門家の地位：専門職発展のためのオーストラリア政府基金に関する報告」(20分)、続いてドイツのMichael Germannによる「ドイツにおける鍼教育の新法の地位、その法文化と承認、新しく有利な

発展」(15分)、このセクションの最後にオーストラリアのJames Flowersによる「なぜわれわれは規制者にまかせたままにはしておかないのか? 規制された職務環境における確固たる職業的自立の重要性」について講演があり、この後30分間の総括的質疑応答があってこの日の本会場でのすべての発表は終了した。

次にMeeting Room B (Session 1B 臨床応用) について紹介する。この会場での最初の演者は、招待講演として、中国のLiu BaoYanの「臨床の実際 中国的観点から」(35分)。次に特別講演としてノルウェーのElse Skilnandの「労働による疼痛の調整に対する鍼」(25分)について講演が行われた。引き続き講演として、イタリアのGan Liang Hooによる「リウマチ性心疾患と鍼」(20分)、中国のGuo Wenyuによる「頭部の循環感応点における治療成績と心機能に及ぼす影響の研究」(20分)、イタリアのAmerigo Boriglioneの「肩関節の寒湿症候群に対する鍼灸灸」(20分)、メキシコのLuz Ros Torresによる「真性糖尿病の鍼と薬用植物療法」(15分)、日本の渡邊裕による「末期癌の痛みに対する鍼治療 特に経穴注射による」(20分)発表と続き、午後6時にこの日の本会場での講演は終了した。

## (2) 第2日 2003年9月13日(土)

第2日目のMain Auditorium (Session 2A エビデンス) では、招待講演としてアメリカのRichard Hammerschlagの「1997~2002年までの鍼のランダム化比較試験 - CONSORTとSTRICTAによる質評価のパイロット研究」(45分)であった。

この後、休憩を挟んで一般講演に移り、英国のHugh Macphersonの「鍼と実用的ランダム化比較試験による腰痛の成績」(30分)、英国のVal Hopwoodの「卒中発作における鍼の効果」(20分)、中国のLiu Yifanによる「抗酸化酵素の活性における鍼の効果とSAM-P/10の脳における遺伝子形質発現」(20分)の発表があった。

続いて、Meeting Room B 会場の裏手の部屋でポスターセッションが行われたが、それについては項をあらためて述べることにする。

次に午前9時から始まったMeeting Room

(Session 2B 臨床応用) での最初の演者は英国のGiovanni Maciociaの招待講演で、テーマは「緑色舌苔と鬱血」(45分)であった。この後、3分間の休憩を挟んで10時15分から一般講演としてイタリアのMauro Cucciの「鍼治療におけるリウマチ性関節炎の臨床研究と長期予備成績」(20分)、引き続いて、中国のLiu Zhenhuanの「リハビリテーションとしての脳性小児麻痺の治療による鍼の作用」(20分)、イタリアのStefano Liguoriの「鍼治療の正しい刺激の重要性」(20分)、インドネシアのJuliana Tjandraの「鍼による薄い髪と脱毛症の予防と薬物療法」(15分)、ノルウェーのTorstein Arnesの「五行気功、理論と実際のワークショップ」(40分)が行われて本会場での午前の会議は終わった。

午後のMeeting Room B (Session 3B エビデンス) は最初に特別講演としてノルウェーのCry Sagliの「中医学を研究することに、すべてエビデンスに基づいた知識が必要とされるのか?」(45分)。さらに特別講演としてノルウェーのArne Johan Norheimの「朝の吐き気に対する鍼、ランダム化プラセボ比較研究」(20分)と続いた。この後、一般講演としてカナダのTian Yifanによる「衝脈の新しいイメージ」(20分)とオランダのSofyan Rangkutiの「脈診に対するさまざまな態度」(20分)の発表があった。以上第2日目の各演者の発表はすべて終わった。

## (3) 第3日 2003年9月14日(日)

最終日のこの日は午前9時から、まず全体会議(Plenary Session)としてMain Auditoriumで特別講演がイタリアのFlora Ippolitiにより「鍼とプロラクチン」(30分)をテーマに行われた。

この後、9時30分から10時40分までMain Auditorium (Session 4A エビデンス) とMeeting Room (Session 4B 臨床応用) の2会場に分かれて一般講演が行われた。Session 4AではイタリアのRomina Tideiの「インフルエンザ症候群の予防における灸と予防接種の費用対便益」(20分)とインドネシアのKoosnadi Saputraの「鍼のシグナル伝達の科学的モデル」(30分)の2題の発表があった。

Session 4Bの会場ではオランダの Sofyan Rangkutiの「2000年代のうつ病」(15分)、オーストラリアのLi Ke「鍼と乳汁分泌不足におけるパイロット研究」(15分)、イタリアのSerena Minciarelliの「疼痛肩関節症候群に罹患した28症例の推拿と電気鍼の併用治療」(15分)、日本の村田徳次郎の「初期の腰痛治療に対する灸の使用法」(15分)の発表があった。この後、20分の休憩があり、11時から12時までMain Auditoriumで基調・招待講演がスウェーデンのChrister Carlssonにより「臨床的に適応性のある長期効果に対する鍼のメカニズム - 再考と仮説」(60分)がPlenary Sessionで行われた。この後ランチタイムとなり、午後は1時から3人の演者によって基調・招待講演が行われた。

最初に中国の王雪苔による「経絡の走行についての現代科学的実証」(30分)、次いでイタリアのAldo Liguoriの「前兆のない偏頭痛に対する鍼とリザトリプタン(Rizatriptan)」(30分)、さらにノルウェーのBernt Rognlienの「刺鍼、手技、安全・安全は生きた解剖的構造に接近した位置の経穴に攻撃的な刺鍼テクニックを生む」(30分)を最後に本シンポジウムのすべての発表は終了した。

#### (4) ポスターセッション

ポスターセッションは、9月13日午前11時30分から12時30分までと同日の午後4時30分から5時30分までの2回にわたり1時間ずつ行われた。各演者の持ち時間は10分で12名がポスターの解説を行った。なお、本項では欠席のため抄録のみの提出だけでポスターの提出・添付のない予定演者の氏名およびテーマも掲載したので左様承知願いたい。

Bisharova K.(ブルガリア)の「鍼と吸角による肥満および蜂巣炎の症例に対する局所治療」、Dyczynski J.(ドイツ)の「高圧酸素治療と併用した耳鳴りの治療に対する医療的鍼」、Arofano G.(イタリア)らの「陰脛脈による複合臨床例の治療」、Goranova Z.の「火針法による疼痛症候群の治療」、Li Yunqinの「持続性植物状態の蘇生法を促すための鍼と胸部圧迫法の研究」、Marinova D.らの「鍼・灸・理学療法による多発

性硬化症の治療」。森和(日本)らの「鍼灸医学に対する科学的アプローチ」、Ros Torres(メキシコ)らの「薬用植物療法とハーブ鍼」、Rughini S.(イタリア)らの「体重過剰の治療におけるホメオパシー対伝統中国式ダイエット療法」、Edna Rossbergらの「慢性副鼻腔炎の患者に対する鍼、偽鍼(sham acupuncture)、慣例の薬物療法のランダム化比較試験」、酒井(日本)らの「脳波図に現れた鍼刺激と自律神経に及ぼす変化」、清野充典(日本)の「東洋医学における理論的研究：第3報東洋医学の成立を求めて」、Shen(カナダ)らの「身体頭皮の経絡におけるScarping, 脳血管疾患73例の臨床研究」、Speronello(イタリア)らの「小児科に関する診断と治療における耳鍼マイクロシステムの調査」、土屋光春の「電気鍼によるベージェット症候群の治療44例の治療」、Xin Junping(中国)の「精神分裂症候群治療40症例の即効的で新しい特殊鍼治療」、Zhang Xiufen(中国)らの「太い針による頸神経叢穴の即刺即抜(plucking)による難治性しゃっくり治療の臨床分析」、Zhangらの「卵巣摘出術を施したラットの骨量における鍼の予防的および治療的効果」。

#### (5) まとめ

演題数は基調講演・招待講演あわせて10題、招待講演6題、特別講演5題、ワークショップ1題、一般講演25、ポスターセッション18題中13題(うち1題は欠席のため添付のみ)であった。したがって、実際に発表された総演題数は60題であった。

発表数を国別にみると、基調講演はノルウェーが3題、中国2題、WHO、オーストラリア、英国、スウェーデン、イタリアそれぞれ1題。招待講演はアメリカ2題、英国、中国、オーストラリア、カナダがそれぞれ1題。特別講演はノルウェー3題、イタリア2題。一般講演はイタリア7題、中国4題、オーストラリア3題、日本、英国、オランダ、インドネシアそれぞれ2題、ドイツ、メキシコ、カナダがそれぞれ1題であった。

また、ポスターセッションでは、イタリア、日本がそれぞれ3題、中国2題、ブルガリア、ドイ

ツ、メキシコ、カナダ、ポルトガルがそれぞれ1題であった。

全体的に発表数は少なかったが演者一人の持ち時間は長く、基調、招待、特別講演の講演時間は平均33分、一般講演でも一人平均19分であった。多くの演者が自国語で話し、スライドは公用語の英語で一貫し、視覚的にいずれのも解読しやすく配慮され手慣れた発表が多かった。最近、前回のローマ大会のメインテーマ「鍼灸に妥当な研究方法の確立に向けて」に一歩進んで、本大会では「鍼のエビデンス、安全性と応用」と具体的にメインテーマが絞られてきた。そうしたこともあってか鍼のエビデンスに関する発表が内容の是非はともかく増えてきたようである。

#### WFAS第5期執行委員会第4回委員会

標記委員会は2003年13日午後3時から6時まで、会場の中2階 Sald Mesaninen で行われた。

出席者は、名誉会長・王雪苔、会長・鄧良月、前会長・洪伯榮、副会長・Richard Li、Aldo Liguori、Nguyen Tai Thu、張金達、黒須幸男の5名、事務総長・沈志洋、財務局長・李維衝、執行委員・申泰鎬、Liu Bao Yan、Arne Kausland、Michael Germann、Juliana Tjandra、津谷喜一郎、以上16名であった。

本委員会にはWFAS会長が就任した後、沈志洋事務総長から会議の議題が提示され議事に入った。

#### (1) オスロ・シンポジウムの報告

ノルウェー鍼灸協会はWFAS2003年度国際鍼灸シンポジウムを開催するにあたり次のように概要報告が行われた。参加者は21か国より324名、その中ノルウェー182名、国外142名である。演題数は基調講演・招待講演、特別講演あわせて21題、一般講演25題、ワークショップ1題、ポスターセッション13題で総計60題であった。

#### (2) 世界保健会議およびWHO地域委員会会議の件

世界保健会議 (World Health Assembly) ならびにWHO地域委員会 (WHO regional committee Meetings) に出席したWFAS執行委員は、それら

の会議について重要な情報を提供しようWFAS本部からの要請があった。

#### (3) WFAS・第6回世界鍼灸学術大会および第6回代議員総会の準備作業の件

- ・本大会は、オーストラリアのGold Coast Convention and Exhibition Centreで2004年10月29日(木)から31日(日)まで行われる。ただし、大会登録は28日(木)正午12時30分より午後7時まで受付。公用語は英語、中国語のみとする。
- ・第6期執行委員会の組織上の原則を検討する。もし執行委員をさらに増員できるならば25名から30名以上にする。新旧メンバーの正しい配分。
- ・WFASの憲章の「項」の改定を検討。

#### (4) 2004年から2006年までのWFASとWHOの協力プランを論議する。

WHOの主催する世界保健会議ならびにWHOの地域委員会にもWFASとして積極的に協力をしていく。

#### (5) その他

2005年度の国際シンポジウムにはポルトガル電気鍼灸協会 (Associação Portuguesa de Acupuntura Eléctrica) が開催地として立候補したい旨希望を述べた。

#### 閉会式

閉会式は14日の午後2時30分から始まった。まずArne Kausland大会長の謝辞がのべられた後、優秀な抄録・発表者の表彰が行われた。次いでWFAS2004年の第6回世界大会の企画内容がオーストラリアの代表によって述べられ、最後に、文化的景観や行事の紹介があって本大会は無事終了した。

総体として、シンポジウムのタイトルが示すごとく世界的なEBMの流れを反映し、科学的水準の高い会であった。

## Foreign Introduction

## Report of 2003 WFAS International Symposium on Acupuncture at Oslo

KUROSU Yukio and TSUTANI Kiichiro

- 1) Councilor of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM)
- 2) Director of International Affairs, JSAM

## Abstract

The International Symposium on Acupuncture, sponsored by the World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies (WFAS) was held on 12-14 September 2003 at Oslo Congress Center, Oslo, Norway.

The main theme of the congress was "The evidence, safety and application of acupuncture", and 324 researchers from 21 countries all over the world participated. Kurosu Yukio (Vice president of WFAS and councilor of JSAM) and Tsutani Kiichiro (member of WFAS Executive committee and Director of International Affairs, JSAM) attended the congress as JSAM representatives.

There were 21 lectures, one workshop, 25 oral presentations, and 13 poster presentations. Although number of papers presented was relatively small, there was enough time to discuss the varied topics presented, particularly the methodological and application aspects of evidence on acupuncture.

*Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion, JJSAM) 2004; 54(4): 642-6.*